

第 37 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム人文学・社会科学学生賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

奨励賞

「No More Handshaking: How have COVID-19 pushed the expansion of computer-mediated communication in Japanese idol culture?」

(Proceedings of ACM CHI Conference on Human Factors in Computing Systems,
2021 年 5 月)

矢倉 大夢 筑波大学 大学院理工情報生命学術院 システム情報工学研究群
知能機能システム学位プログラム 博士後期課程 1 年

本論文は、「アイドルとファンの交流」という限られた局面であるものの、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 禍における CMC の変容を intervenability (干渉可能性) という新たな関係概念を用いて分析している点は、意欲的・先駆的なものとして評価できる。今後、この intervenability という概念の精緻化とそれがどの程度まで有効かという点を吟味していくことが求められる。

奨励賞

「法とアーキテクチャによる非マッチング型プラットフォーム規制の在り方」

(未発表：学士論文)

高木 美南 九州大学 芸術工学部 芸術情報設計学科 4 年

本論文は、非マッチング型プラットフォーム規制について、法とアーキテクチャによる規制に加え、両者の関係性について名誉毀損、著作権侵害、フェイクニュース規制など 5 つの分野を取り上げて検討を加えた意欲作である。5 つの分野はそれぞれに 1 つの論文で検討をすることも可能なテーマであり、各テーマの掘り下げは十分とはいえないところもあるが、学部生の卒業論文としては、それらをととも上手く整理・分析した優れた論文である。

奨励賞

「Collaborative consumption in China: An empirical investigation of its antecedents and consequences」

(Elsevier, Journal of Retailing and Consumer Services, 2021 年 9 月)

倪 少文 筑波大学 大学院システム情報工学研究科 社会工学専攻 博士後期課程 3 年

本論文は、シェアリング・エコノミーの進展がコラボ消費にプラスに働くことを、中国の消費者を対象に丁寧な実証分析で示した点は高く評価される。同種の先行研究の多くは欧米諸国を対象としたものであり、中国の事情に詳しい著者のアドバンテージが生かされた論文である。分析結果が日本でも当てはまるのかといった普遍性については疑問であるが、日本、欧米との比較研究も今後のテーマであろう。情報通信との関連性が強い論文ではないが、マーケティング分野での学術的貢献は大きい。